児童に見られるつまずき

　図形の位置や見方を変えて構成することができない

つまずき解消に向けた指導のポイント

　「まわす」「うらがえす」「ずらす」といったキーワードを用いて色板を動かして形作りをする活動を通して、位置や向きが変わっても、同じ形であることに気付かせる。

指導事例集ｐ．６３

１　学年・単元名　　第１学年　「かたちづくり」（図形領域）

２　単元目標

　　身の回りにあるものの形を観察したり構成したりするなどの活動を通して、平面図形について理解の基礎となる経験や感覚を豊かにする。

３　単元の内容

　・色板を並べて、きめられた形を作る

　・棒を並べて、きめられた形を作る

　・点をつないでいろいろな形を作る

　**・色板や棒を回転・移動させて形を変える**

４　本時の目標①

　　位置や向きが変わっても、同じ形であることに気づくことができる。

５　本時の展開①

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 児童の活動 | 指導上の留意点**太字：つまずきに対する手立て** |
| 導入 | １　教科書の絵を見ながら、どんな形があるか発表し、色板で形を構成するという活動への見通しをもつ。２　それぞれの形が、どのような形を組み合わせてできたものなのかを確認する。 | ・絵を見て気づいたことを発表しながら、形を構成することに関心をもたせるようにする。・**「しかく」「さんかく」といった表現だけでなく、「おさらのかたち」「ながしかく」などの表現も使えるようにする**。 |
| 自力解決 | ３　自分で作りたい形を決め、色板でその形を構成する。いろいたをならべて、いろいろなかたちをつくろう参考：授業の様子① | ・色板を重ねないこと、縁や角をくっつけて形を作ることを確認する。・授業の後半では、どの形を組み合わせて何を作ったのかを友達と交流することを伝えておく。 |
| 交流 | ４　二人組で、作った形の紹介をする。５　全体の場で、同じようなものを作った児童を取り上げ、その違いに気づかせる。 | ・色板の枚数や組み合わせによって様々な大きさの三角形や四角形を作ることができることに気付かせる。・家、魚、ヨットなど、作ったものの名前だけでなく、**「○○と○○をつかってつくりました。」というように用いた図形に着目しながら説明できるようにする。** |
| まとめ | ６　色板の枚数や組み合わせによって、様々な大きさや形の三角形や四角形が作れることに気づく。 |  |

６　本時の目標②

　　「さんかく」や「しかく」の形についての特徴をとらえたり、「さんかく」を組み合わせると「しかく」ができることに気づいたりできる。

参考：板書

７　本時の展開②

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 児童の活動 | 指導上の留意点**太字：つまずきに対する手立て** |
| 導入 | １　前時の学習で、４枚の色板で様々な形が構成できたことを想起する。２　本時の学習では、さらに「１枚だけを動かして」形を変えるという条件が加わることを知る。１まいだけうごかして、かたちをかえよう |  |
| 展開 | ３　教科書の図を参考に、色板を動かす。（１）自力解決（２）ペアで交流（３）全体で交流参考：授業の様子②４　３つの動かし方が、それぞれ「まわす」「うらがえす」「ずらす」で表せることを理解し、色板の動作を定着する。 | **・ペアで交流する際、色板の動かし方を言葉で説明できるように促す。****・全体での交流では、それぞれの色板の動かし方と一致する言葉を探し、共有する。****・「まわす」「うらがえす」「ずらす」に近い言葉がでてくるよう働きかける。** |
| まとめ | ５　本時の学習を振り返り、まとめをする。・４枚のいろいたで、いろいろなかたちをつくることができる。・「まわす」と色板の向きが変わる。・「ずらす」と色板の向きは変わらない。・「うらがえす」と色が変わる。・どの動かし方をしても、三角の形は変わらない。 |  |